

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

July 2022 vol.99

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

◆ 岡崎水害探索まちあるきルート

岡崎市を流れる矢作川は、古くから治水対策として河川改修が繰り返されてきました。1600年頃には大規模な付け替え工事が行われ、現在の矢作川の川筋がおおむね完成しますが、その後も大雨になると堤防が決壊するなどし、たびたび大きな被害が発生しています。岡崎市内には、この矢作川の決壊をはじめとした、水害にまつわる慰霊碑が数多く残されています。今回は、岡崎の水害にまつわる慰霊碑を巡る、名鉄矢作橋駅から岡崎市役所・東岡崎駅までの、約5.5kmのまちあるきルートを紹介します。

最初の目的地は、矢作町の旧東海道沿いにある**弥五騰神社**（地図①）です。文政期（1818～1830）の矢作川では、文政5（1822）年の八町村内の大林寺領内での堤防破損、文政8年の上青野村内本光寺西での100間にわたる決壊など、水害が相次ぎました。なかでも、文政11年7月1日の洪水は「文政の大洪水」と呼ばれ、矢作川大曲り（弥五騰神社の北東）の堤防が決壊し75軒の家が流され、14名が犠牲となりました。弥五騰神社には、この文政の大洪水における犠牲者の供養のために建てられた慰霊碑があります。



弥五騰神社の慰霊碑

続いて、同じく矢作町の**勝蓮寺**（地図②）です。少し時代を遡りますが、明和4（1767）年7月13日にも、矢作川の堤防が大きな被害を受けた洪水がありました。岡崎及びその周辺の地誌『参河聡視録』では、矢作川の堤防が数ヶ所で決壊、広い範囲で浸水し家が流され、多くの人が亡くなったと伝えられています。勝蓮寺には、この明和4年の

洪水の慰霊碑があります。碑の表面には「南無阿弥陀仏」の文字が刻まれ、裏面には「去年七月十三日溺死者若干因為之建焉 維明和五子載七月上旬」と記されています。慰霊碑は、もとは矢作川堤塘上にありましたが、明治年間に勝蓮寺の境内に移されました。



勝蓮寺の慰霊碑

続いて、矢作橋を渡り、**八丁蔵通り**（地図③）に寄り道します。岡崎市の名産品「八丁味噌」の名前は、岡崎城から西へ八丁（約870m）離れた八丁村（現在の八帖町）で製造されていたことに由来します。現在、八丁味噌を製造している味噌蔵は「まるや」と「カクキュー」の2軒のみで、ともに江戸時代初期頃から製造を行っている老舗です。この八丁味噌づくりの味噌蔵が建ち並ぶ通りが八丁蔵通りで、平成18（2006）年には、NHKの連続テレビ小説「純情きらり」のロケ地にもなりました。



八丁蔵通り

時間に余裕があれば、**岡崎城・岡崎公園**（地図④）にも立ち寄ってみましょう。愛知環状鉄道中岡崎駅の下をくぐり東へ。岡崎城は、徳川家康公生誕の地です。現在の天守閣は昭和34（1959）年に復元されたもので、内部は江戸時代の岡崎城を紹介する歴史資料館となっています。公園内には家康公の産湯に使った水を汲んだ「産湯の井戸」、家康公と三河武士の歴史が学べる「三河武士のやかた家康館」などがあり、季節ごとにイベントが行われます。桜や藤の名所としても知られ、シーズンに



岡崎城



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



なると花見客で賑わいます。家康公ゆかりの地で、お昼にするのも良いですね。(2023年のNHK大河ドラマ「どうする家康」の放映に向けたリニューアルのため、岡崎城は6月から、家康館は8月から来年1月まで休館となります。)

さて、矢作川最大の支流・乙川も、これまでに幾度となく洪水を繰り返してきました。次の目的地・**久後崎**(地図⑤)は、古くから「流れ久後」と呼ばれ、人々は家を建てることを避けてきました。また、岡崎城の対岸に位置しており、城を水害から守るため堤防が低く設定された「越流堤(乗越堤)」となっていました。明治15(1882)年の豪雨で、乙川の堤防が決壊し、43名の犠牲者が出ます。これを機に堤防は本格的な改修が行われ、明治18年に完成しました。

三郡輪中治水碑は、当時の治水工事の様子を漢文で今に伝えています。また、隣には、明治15年の豪雨による43名の犠牲者の名前が記された溺死者追悼碑が建てられています。



(左) 溺死者追悼碑 (右) 三郡輪中治水碑

最後は**岡崎市役所**(地図⑥)です。岡崎市役所の東庁舎1階には、「生活の中に防災を」をテーマとし、防災に関する知識や備えの必要性を、見て・触って学ぶことができる、防災展示コーナーがあります。映像シアターでは、地震と豪雨の災害を200インチの大画面と照明効果、音響による臨場感ある映像で放映しています。また、プロジェクションマッピングにより、岡崎市の航空写真に震度、液状化危険度、浸水想定区域を重ね合わせ、地域の災害特性を知ることができます。まちあるきの最後に、防災展示コーナーで今日の振り返りをしましょう。

帰り道、東岡崎駅へ向かう途中には、オトリバーサイドテラスがあります。乙川を望む北棟にはカフェやレストランが並び、ライトアップされた川や橋を眺めながら食事を楽しむことができます。テラスと駅をつなぐペDESTリアンデッキには、日本最大級の家康公の騎馬像があります。まちあるきの終わりにぜひお立ち寄りいただき、家康公ゆかりの地・岡崎を満喫してみてください。



オトリバーサイドテラス

★ 岡崎城下家康公夏まつり

岡崎城下家康公夏まつりは、家康公が江戸に入った日、天正18(1590)年8月1日を記念し、家康公生誕の地・岡崎の城下に多くの人々が集い、岡崎の伝統文化の継承と、新しい文化の創造を図る夏の行事です。

岡崎城天守閣前では、家康公御遺訓唱和と岡崎泰平おどりが催されるほか、岡崎公園能楽堂での味噌六太鼓(八丁味噌桶として使われていた大桶を加工して大太鼓にした、6尺(約180cm)にもなる大太鼓)



岡崎まつり HP より

日本一決定戦、子どもたちによる味噌六太鼓叩き体験(味噌六竹千代杯)など、岡崎の夏を盛り上げるイベントが開催されます。(7月から9月にかけて開催、日程は岡崎まつり HP (<http://www.okazakimatsuri.jp/>) をご覧ください。)

あいちの農産物

愛知県はぶどうの栽培が盛んで、岡崎市や豊橋市、知多半島が主な産地です。



愛知県 HP より

巨峰の生産量は全国4位で、種なし技術は愛知県で確立されました。

店頭で選ぶ時には、果軸が太く青みがあり、粒の表面に白い粉をふいているものが新鮮で、一般的に果皮の色が濃いほど熟しています。

近年は、透きとおるような薄緑のシャインマスカット、鮮やかな紅色のクイーンニーナなど、色とりどりのぶどうも栽培されています。

● ブレイクタイム ●

♪ 岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」

岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」は、図書館を始め文化創造など4つの機能で構成される知的活動拠点です。家康の菩提寺・大樹寺から岡崎城を眺望するビスタラインを表す南北の「お城通り」と、岡崎城の外堀をイメージした東西の「お堀通り」により、岡崎の歴史を表現した建物となっています。

1階には岡崎市の礎を作った人物やまちの移り変わりなどを写真や映像、実物の展示で見ることができる岡崎むかし館、2階にはジャズのまち岡崎にちなんだ内田修ジャズコレクションなどがあり、カフェ・レストランも併設されています。



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022年7月)